

【人文社会系（社会科学）】

イノベーション・プロセスに関する産学官連携研究

ちゅうま ひろゆき
中馬 宏之

（一橋大学・イノベーション研究センター・教授）

【研究の概要等】

理論的・実証的な視点から日本のイノベーション・プロセスに関する特徴を把握すると共に、様々な課題を抽出し、弱点の克服策をも模索する。特に、その際、半導体・バイオ・医薬品等のサイエンス型産業に注目する。実施に際しては、新エネルギー・産業技術総合開発機構、文部科学省・科学技術政策研究所、日本半導体ロードマップ技術委員会、バイオインダストリー協会、日本製薬工業協会、医薬産業政策研究所等との人的相互交流を含む包括的な産学官共同研究体制を採る。より具体的には、次のような調査・分析を行う。a) 研究開発プロジェクト・レベルのマイクロ統計データに基づき、知識創造・統合が知識活用・実現に結びつくイノベーション・プロセス上の特徴・問題点の経済理論・実証分析、b) 半導体産業におけるITRS（国際半導体技術ロードマップ）の特徴・意義・限界の分析、産学官間にまたがる各種の半導体研究開発コンソーシアムを効率的に機能させるための組織メカニズムの検討、c) バイオ・医薬品産業におけるイノベーションにおいて垂直的分業構造（大学その他の研究機関、バイオベンチャー、医薬品メーカー）が果たしてきた役割に関する日米比較研究と日本に求められている産学官連携システムの模索。

【当該研究から期待される成果】

本研究の成果は、パフォーマンス低下傾向にある日本のNational Innovation Systemを再び活性化させる際に多くの重要な示唆を提示すると考えられる。また、本プロジェクトが模索しようとしているユニークな産学官にまたがる文理融合した形での包括的な連携研究は、学術面においても国際的なレベルでのオリジナルな成果を少なからず生み出しうると期待される。中間・最終の研究成果は国内外のワークショップやコンファレンスにおいて逐次発表し、研究叢書や『一橋ビジネスレビュー』（イノベーション研究センター編）の特集号として刊行予定する。国際コンファレンスについては、別途英文による書物としても公刊予定である。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・ "Moore's Law, Increasing Complexity, and the Limits of Organization: The Modern Significance of Japanese Chipmakers' DRAM Business," (with N. Hashimoto), RIETI Discussion Paper, 08-E-001, 2008
- ・ Chuma, Hiroyuki, "Determinants of the Shadow Value of Simultaneous Information Sharing in the Japanese Machine-tool Manufacturing Industry," Ogura, Seiritsu, Toshiaki Tachibanaki, and David A. Wise, eds., *Labor Markets and Firm Benefits Policies in Japan and the United States*, (National Bureau of Economic Research Report), University of Chicago Press, 2003, pp. 81-102
- ・ "Increasing Complexity and Limits of Organization in the Microlithography Industry: Implications for Science-based Industries," *Research Policy*, Vol. 35, No. 3, April 2006, pp. 394-411

【研究期間】 平成20年度－24年度

【研究期間の配分（予定）額】

109,200,000 円（直接経費）

【ホームページアドレス】

<http://www.iir.hit-u.ac.jp/>